

みんなが歩きやすい通路って？

安全でスムーズに移動できる

- ≫ 敷地の外の道や駐車場から建物の出入口、建物の部屋まで、切れ目なく安全にスムーズに移動できる。
- ≫ 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をしなくても行きたいところに行ける。
- ≫ 雨の日や夜も安全に利用することができる。

誰でも同じルートを通れる

- ≫ ユニバーサルデザインは最初から誰もが使いやすいように設計するという考え方。
- ≫ 誰もが同じルートを使うことで、「特別な経路」がなくなり、みんなが同じく社会に参加することにつながる。
- ≫ 経路が統一されると、安全確保や管理するうえでも効果的。

バリアは、設備を整備しただけでは解消できません。一人ひとりが相手の立場に立って行動することで、差別や偏見のない社会が実現できます。

無関心はやめ、一緒に考えましょう。

設備を整えるだけでなく、私たちの言葉や行動、思い込みなどが「心のバリア」を作ってしまうことがあります。たとえば、困っている人に気づいても声をかけない「無関心」もバリアの一つです。障がいのある人も、体調が悪いときの私たちと同じように、助けを求めたいけれど言い出せないことがあります。だからこそ、相手の立場になって考え、行動することが大切です。思いやりのある行動が、バリアをなくす第一歩になります。

バリアを感じている人の身になって考えてみよう！



歩いていて困ったことは？

- 1 マンホールが段差になっていると、つまずいてころんでしまう危険があるので、通路上にマンホールは設置しないでほしい。
- 2 車いすやベビーカー、松葉杖を使っていると傘がさせない。
- 3 排水溝の蓋などに杖や車いすのキャスターやヒールがはさまってしまう。
- 4 北側の日陰となる通路は、冬期間、雪が融けず凍っているため、滑って転んでしまいそうで歩くのが怖い。

こうして ↓ 解決！

安全でスムーズに移動できる

- 1 歩行者と車が交差しないように通路をつくる。やむを得ず交差する場合、歩行者用通路には、視覚障がい者用誘導標識を設置し、見通しをよくする。
- 2 路面が濡れたり、凍ったりして転倒しないよう、また、傘をさせない人が、濡れずに通れるよう、屋根の設置や通行ルートを工夫する。
- 3 視覚に障がいがある人が衝突したり、車いす、ベビーカーやシルバーカーを使っている人が通りにくいことがないように、通路には車止めを設置しない。
- 4 通路に雪を置かないよう、敷地内に雪捨て場を設け、融け出した雪が通路に入って路面が凍らないよう排水処理する。



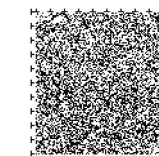
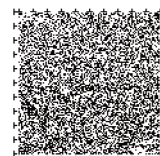
車いすのキャスターや杖が溝に落ちない配慮
段差がなく、隙間が細かい蓋を使った排水溝。



通路の上屋と誘導ブロックの設置
屋根付き通路と、舗装面との色の違いに配慮し、連続して敷設した視覚障がい者用誘導ブロック。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
2章 単位空間等の設計//1.敷地内通路P29～



ルート上で
困ったことは？

- 1 階段があって、車いすやベビーカーでは通行できない場所がどこか、事前に知りたい。
- 2 表示板が高い位置にあり、近づいて内容を確認することが難しい。
- 3 広い空間では、どこを歩けば良いか、どの方向へ進めばよいか迷ってしまう。
- 4 家族や友人、介助者などと並んで会話をしながら安心して歩きたい。

こうして 解決！

公平性
柔軟性
わかりやすさ

誰でも同じルートを通れる

- 1 建物の配置、出入口・エレベーター・トイレ・駐車場の位置がわかる表示板を設置しピクトグラムや点字、音声などを組み合わせ、みんながわかりやすい案内とする。
- 2 表示板は、目線の低い人が見上げる角度が小さくなるように、また、視覚に障がいのある人が近づいて内容を確認できるよう、高さや位置に配慮する。
- 3 道路の歩道から敷地内の通路まで、視覚に障がいのある人が目的地へ迷わず、目的の場所まで移動できるよう、途切れの無い誘導ブロックを敷く。
- 4 通路は、段差がないこと、または、スロープが設置されていることに加え、車いすやベビーカーを使用する人も同伴者と並んで通行ができる広さとする。



ピクトグラムを用いた案内板

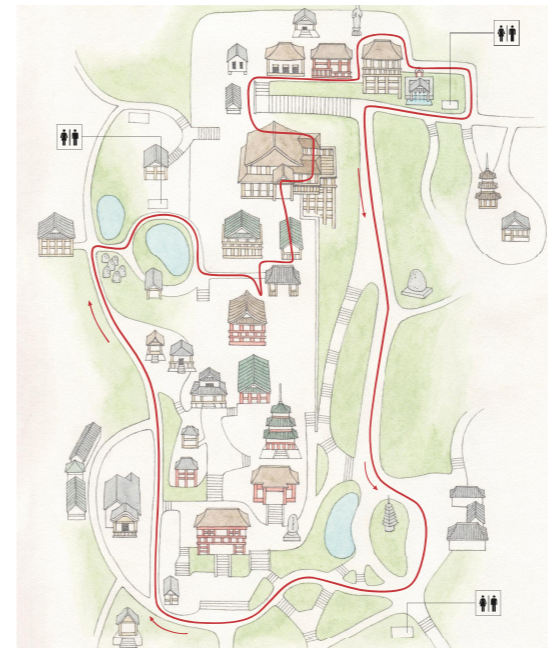
築地本願寺境内にある各建物の位置と、それぞれの出入口、エレベーター、バリアフリートイレの位置を、ピクトグラムを用いて分かりやすく表示。



出入口（築地本願寺本堂）の傾斜路

本堂は重要文化財であり、文化的価値を守るため構造への改修できません。そのため、外観の意匠に調和する形で、本堂横の出入口脇にスロープを設置し、利用しやすさにも配慮。

音羽山清水寺(京都府京都市)



車いすの人のための境内参拝マップ

マップはホームページからダウンロードできる。



境内の車いす用舗装部



奥の院への参拝路



境内の車いす用舗装部



これまで階段が多く段差が解消されていなかった参拝路を、景観に配慮しながらスロープ化することで、境内を一周できる段差のない参拝ルートを整備。

善光寺(長野県長野市)



車いすで参拝しやすいルートのマップ

マップは、ホームページからダウンロードでき、境内の主な参道のほとんどを車いす移動できる。



本堂東側スロープ

本堂の雰囲気配慮したデザインのスロープにより、車いすのまま本堂へ入ることができる。



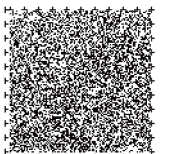
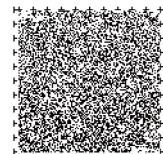
本堂入口のスロープ

みんなが安心して通れるようにするには、スロープや手すり、床の傷みをこまめに確かめて、気づいたらすぐ直すことが大事なんだよ。



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 2章 単位空間等の設計//1.敷地内通路P29～



安心して使える駐車場って？

安全でスムーズに駐車できる

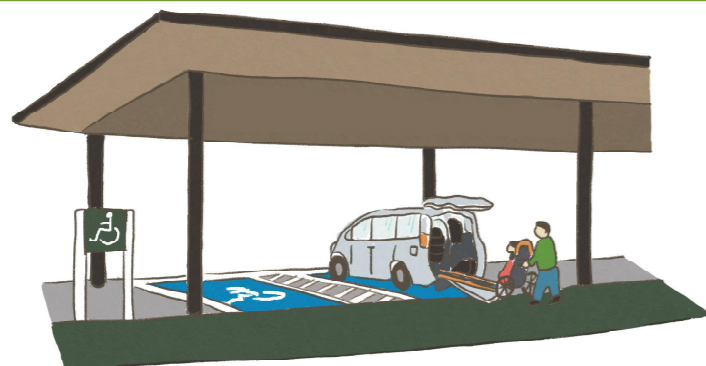
- ≫ 駐車区画や優先駐車区画の表示がわかりやすいと、スムーズな利用につながる。
- ≫ 歩行者と車の動線が交差しないようにすることで、安全性が高まる。
- ≫ 車の後部ドアから乗り降りする人もいるので、十分なスペースが確保されているとスムーズに利用できる。

乗り降りの大変な人でも使いやすい

- ≫ お年寄りや障がいのある人にとって、自動車は外出や社会参加のための有効な手段。
- ≫ 車いす使用者用駐車区画と別にお年寄り、妊婦、乳幼児連れや、けが人等のための優先駐車区画があると必要な人に必要な設備が行き届きやすい。

天気の悪い日にも使いやすい

- ≫ 乗り降りに時間がかかる状態の人にとっては、雨風の日などは、ひさしのある駐車場や出入口に近い駐車区画が使いやすい。
- ≫ 夜間の利用者の安全確保も必要。



大きな屋根と広いスペースがあれば安心して乗り降りできるね



車いすだとどんなことが大変？

- 1 路面に雪があって、車いす使用者用駐車区画の場所がわからない。
- 2 車いすだと、止まっている車にかくれてしまい、走ってきた車に気づかれにくい。
- 3 車から降りるためのスロープが設置できず、降りてから方向転換するためのスペースもない。

こうして 解決！



負担軽減
ゆとりある
空間

安全でスムーズに駐車できる

- 1 車いす使用者用駐車区画は、利用対象者がハッキリわかるように、絵と大きな文字で運転席から直感的にわかるように表示し、積雪時にも配慮した高さの表示とする。
- 2 車いす使用者用駐車区画は、建物出入口近くへ設け、車路を横断しないで利用できるようにする。
- 3 スロープ・リフトの出る車両の利用を考慮し、後部ドアからのスロープ・リフトによる乗降が可能な車寄せ・空間を施設出入口付近に設置する。
- 4 車いす使用者用駐車区画は、車のドアを全開にしても、隣の車にドアがぶつからない広さをつくる。
- 5 駐車区画内は、水たまりができてにくい形状とし、区画線は濡れても滑りにくい仕上げとする。

<車いすの人の車の乗り降りのイメージ>

①車のドアを全開にする。

②車いすから車の座席に乗り移る。

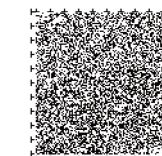
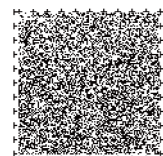
③車いすを車にしまう。



【出典：国土交通省 / 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準】

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計//2.駐車場P36～



何で
使えないの？

- 1 駐車区画が狭く、ベビーカーを車の横に置いたまま、赤ちゃんを乗り降りさせることが大変。
- 2 車いす使用者用駐車区画が少なく、使いたいときに使えない。
- 3 車いす使用者用駐車区画はあるが、ゼブラゾーン(乗降スペース)に車を停めている等によって、安全に乗降できない。

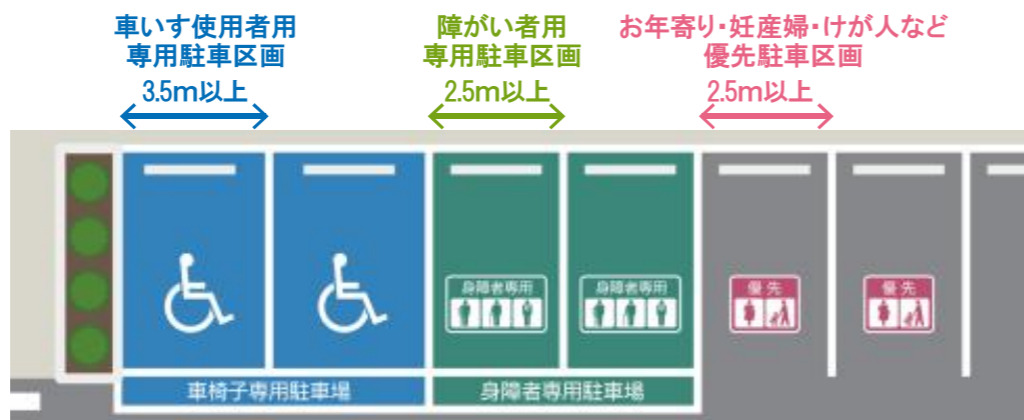
こうして 解決！

公平性
使いやすさ
ゆとりある空間

乗り降りの大変な人でも使いやすい

- 1 お年寄り、妊産婦、乳幼児連れ(ベビーカー)、けが人等、広い駐車区画を必ずしも必要としないものの、移動に配慮が必要な人のための優先駐車区画をつくる。
- 2 車いす使用者用駐車区画の舗装面には、青色の地に白色のマーク等の目立つ塗装により国際シンボルマークを表示する。
- 3 車いす使用者用駐車区画と優先駐車区画は複数設置し、不適正利用を防止するため、表示板(標識)は目立つものとする。

優先利用できる人には「利用証」を発行してもらえませんか？



【出典：国土交通省 / パーキング・パーミット制度事例集】

雨や雪の日って
何が大変？

- 1 車いすだと雨の日に傘をさすことが大変で、車の乗り降りに時間がかかってしまうと、ずぶぬれになってしまう。
- 2 車いす使用者用駐車区画があっても、車いすのまま乗り降りできるスペースが確保されていない。
- 3 車止めブロックや車止めポールが邪魔で、スロープが設置できず、車いすのまま車から降りることができない。

こうして 解決！

使いやすさ
負担軽減
ゆとりある空間

天気の悪い時でも使いやすい

- 1 屋外の車いす使用者用駐車区画や優先駐車区画には、雨天時でも安全かつ快適に乗降できるよう、屋根または庇を設ける。
- 2 屋根又は庇を設ける場合、あるいは屋内の場合は、車いす用のスロープやリフトを備えた車両の利用を考慮し、車両高さに対応した有効高さ(梁下高さ等)を確保する。
- 3 車いす用のスロープやリフトを備えた車両の利用を考慮し、後部ドアから乗り降りできる車寄せやスペースを建物の出入口付近に設ける。

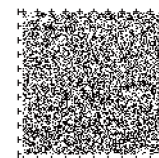
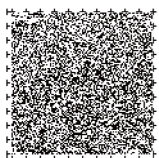


ホンネ

あるけど、使えない。そんな駐車場をなくして欲しい。

認知症グループホームの利用者さんは、社会とのつながりや生活習慣を大切にするために日常的にスーパーの買い出し、図書館などさまざまな場所に出かけます。車いすの利用者さんと出かける時はリフト車を使い、玄関近くの車いす専用駐車場に車を置きます。しかし、駐車場によっては安全ブロックやガードが障害となり、リフト車で車いすの降車ができないことも多くあります。安全ブロックを避けリフト車を逆向きに止めることは、スーパーなどではキケンであるため、結局降車ができずに、買い物をあきらめるケースがあります。そのため、横づけできるスペースを確保していただくか、安全ブロックなどがなくても安全に降車できる工夫をしていただけると、スムーズな利用につながります。

【技術的基準 参考文献】
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計//2.駐車場P36～



誰でも出入りしやすい出入口って？

外から見えやすく、入りやすい

- » 出入口の位置や表示の工夫によって、道路、敷地外、駐車場から、わかりやすく迷わず入れる。
- » 誰もが同じ出入口を通り、「特別な経路」が不要となることは、誰もが同じく社会に参加することにつながる。

誰もが通りやすい

- » 十分な幅を確保し、開け閉めしやすい構造でスムーズに通れる。
- » 緊急時にも迷わず、速やかに避難できる。

入口に必要な情報や支援が得られる

- » 入ってすぐの場所に、案内所や案内表示があることで、施設の情報がすぐに把握できる。
- » 案内所などがあると、わからないことを聞くことができ、必要な支援や情報を円滑に受けることができる。

出入口の目立つところに表示しましょう！

目の不自由な方の歩行のサポートをする「盲導犬」、身体の不自由な方の生活のサポートをする「介助犬」、耳の不自由な方に音を知らせる「聴導犬」の3種類の犬を補助犬といい、不特定多数の人が出入りする施設に、補助犬同伴の受け入れが義務付けられています。



出入口で何が大変？

- 1 出入口や案内表示の位置が分かりにくく、初めて訪れる人が迷いやすい。
- 2 風除室内のスペースが狭いため、同伴者と並んで出入口を通ることができない。
- 3 ドアのむこうが見えなくて、ドアを開けたら子どもが飛び出してきて、ぶつかりそうになった。
- 4 出入口で支援を求めても、気づいてもらえないことがある。

こうして ↓ 解決！

柔軟性
わかりやすさ

外から見えやすく、入りやすい

- 1 インターホンはわかりやすい位置に設置し、道などからインターホンの前まで、視覚障がい者誘導用ブロックや音声による案内で安全に誘導できるようにする。
- 2 出入口の前後や風除室の両側にある戸の間隔は、車いす使用者が直進でき、待機や方向転回するのに十分な広さとする。
- 3 誘導ブロックは、道・出入口から連続して敷設し、出入口のドアや玄関マット、音声案内の手前や受付カウンターには、この場所を知らせるため点状ブロック等を設ける。
- 4 ドアやその周辺は、ドアの反対側の様子がわかるようにし、ガラス戸とする場合は、衝突を防止するため、子どもの目の高さ、大人の目の高さに横棧等の目印を入れる。

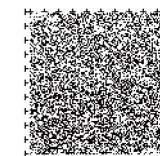
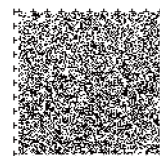


ガラス張りの複合施設

分かりやすい玄関と、ガラスを通して中の様子がうかがえる、親しみやすい出入口。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/3.建築物の出入口 P46～



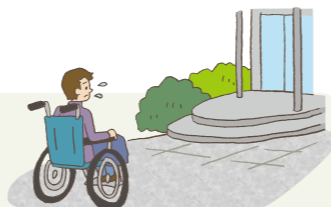
出入口で
通りにくい
感じることは？

- 1 体力の衰えとともに手の力が弱くなってきて、ドアが重いと開け閉めが大変。
- 2 毛足が長いマットは、車いすのタイヤが沈んでしまい通りにくい。
- 3 ゆっくりとしか歩けないので、歩いている途中にドアが閉まってしまうとこわい。

こうして 解決！

わかりやすさ
安全性
ゆとりの空間

誰もが通りやすい



- 1 ドアは感知式の自動式引き戸で、開閉速度を設定できるものとし、ドアの前後は段差がなく、車いすの人がスムーズに通れる広さとする。
- 2 車いすの人が通りやすいように、玄関のマットは埋め込み式とし、毛がふさふさしたものは使わない。また、杖先を引っ掛けたりしないよう、しっかりと端部を固定する。
- 3 お年寄りや障がいのある人などがドアに挟まれないよう、ドア枠に安全装置を設置する。
- 4 非常事態を速やかに伝えられるよう、避難経路の案内表示や誘導用設備は、年齢、国籍、障がい特性に関わらず、全ての利用者がわかりやすいものとする。



広い風除室と埋め込み式玄関マット

風除室全面に埋め込み式で固定されているのでズレ・たるみがでにくく、つまずきや転倒のリスクを低減できる。



誰もが迷わず、安心して進める入口

視認性の高いガラスの入口と段差のない床で、だれでも安心して出入りできる。誘導ブロックのある入口とない入口を選べるため、必要に応じて使いやすいルートを選択できる。

入ったはいいけど
よくわからない。

- 1 どこで、どうやって支援を頼んで良いかわからない。
- 2 どのような支援が受けられるのかわからない。
- 3 案内表示が見つげにくく、建物内の様子がわかりにくい。

こうして 解決！

公平性
わかりやすさ
負担軽減

必要な情報や支援が得やすい

- 1 お年寄り、障がいのある人等の移動支援や案内・誘導等、人による支援ができるよう、出入口の近くに案内所・受付カウンターを設ける。
- 2 建物の出入口に設ける案内表示は、文字、ピクトグラムや図、音声、触知案内図を組み合わせたものとし、近づいて確認ができるようにする。
- 3 案内所・受付カウンターに、筆談ボード、タブレット端末等を常備し、支援ができるという意味のマーク(耳マーク、手話マーク・筆談マーク等)を設置する。
- 4 誘導ブロックは、道や出入口から途切れなく敷設し、受付やインターホンの前など、必要な場所には点状ブロックや音声案内を設けて、視覚に障がいがある人が迷わず移動できるようにする。



▲遠くからでもどこに行けば良いかわかる。



▲ローカウンター

ヘルプマーク

義足や内部障がいのある人など、外見からはわからない人が、周りに配慮を必要としていることを知らせるマークです。



▲ベビールームの設置



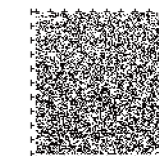
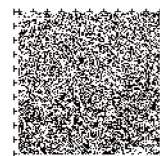
▲耳マーク、支援の依頼

活用しましょう！ 「耳マーク」

「耳マーク」を表示することで、聴覚障がいのある方を歓迎し、対応可能であることを伝えることができます。また、聴覚障がいがあることを示す際にも使用されています。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/3.建築物の出入口 P46～



みんなが移動しやすい通路って？

安全でスムーズに移動できる

- ≫ 建物出入口から目的の室まで、また、使用している室からトイレまで、切れ目なく安全にスムーズに移動できる。
- ≫ 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をしなくても行きたいところに行ける。
- ≫ 非常時にも速やかに避難できる。

誰でも同じルートを通れる

- ≫ ユニバーサルデザインは最初から誰もが使いやすいように設計するという考え方。
- ≫ 誰もが同じルートを使うことで、「特別な経路」がなくなり、みんなが同じく社会に参加することにつながる。
- ≫ 経路が統一されると、安全確保や管理するうえでも効果的。

困っている人を見かけたら、どんな声を掛けたいんだろう？
「何かお手伝いしましょうか？」と声をかけましょう。



- あわてずに、「ハッキリと」、「ゆっくり」、「ていねいに」、相手のペースにあわせて、「何回かくり返して話す」。
- あと何メートルか、右か左か、具体的に話す。



- いきなり手を出して、身体に触れたり、手を引いたりすること。
- 「大丈夫？」など、否定的・上から目線の言葉を使うこと。

廊下で、ヒヤットすることある？

- 廊下を歩いていたら突然ドアが開いたので、避けようと思ったけど、バランスを崩して転んでしまった。
- 曲がり角が鋭いと、白杖が引っかかったり、ぶつかったりすることがある。
- 90度曲がる廊下では、先が見えないので、ぶつかりそうで怖い。
- 柱などの突出部で手すりが途切れていると、進行方向がわからなくなったり、次の手すりを見失ってしまい不安になる。

こうして ↓ 解決！

安全性
わかりやすさ
ゆとりある空間

安全でスムーズに移動できる

- 廊下には柱などの突起物を極力設けず、通路側にドアを設置する場合は、開閉時に通行に支障がないよう、アルコーブなどの安全スペースを確保する。
- 廊下の曲がり角では、人同士の衝突を防ぎ、車いすがスムーズに方向を変えられるように、壁の角を丸くしたり、斜めにし、安全に配慮する。
- 手すりは途切れなく連続して設け、端部や曲がり角、居室の出入口付近には、現在位置や誘導に関する情報を点字や文字で表示する。
- 廊下に設置する防火戸は、車いすの人も安全に通行できるよう、段差のない構造とし、前後に高低差が生じないようにするとともに、十分な通行幅を確保する。



壁面に埋め込まれた消火器と散水栓

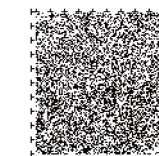
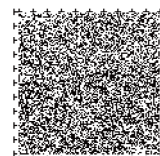
壁の角を斜めにし、また、通行の妨げにならないように、消火器が埋め込まれた廊下の壁。



アルコーブの設置

計測機器等を置くことができる廊下のアルコーブ。

- 【技術的基準 参考文献】
- 高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
- 第2章 単位空間等の設計 /4. 屋内の通路 P54 ~



廊下で通りづらいな
って思うときは？

- 1 車いすに乗ったまま、または杖をついたままでのドアの開閉は困難。
床と壁が似たような色だと、空間の奥行きや高さの感覚が曖昧になり平衡感覚が乱れたり、方向感覚を失ったりするので不安。
- 2 単調な廊下では、目印がないと現在位置が分からなくなる。
- 3 廊下が入り組んでいたり、ぐるぐると回るような形をしていると、進むべき方向が分からなくなってしまうことがある。

こうして ↓ 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

誰でも同じルートを通れる



- 1 床は、毛足の長いカーペットは避け、転倒に対して衝撃の少ない材料で仕上げる。
- 2 床や壁は色のコントラストを大きくし、その境界を容易に識別できるものとする。
- 3 手すりの端部・曲がり角部分、利用居室の出入口付近等へ、現在位置及び誘導情報等の点字・文字表示をする。
- 4 展示室内の順路や図書館の書架間の通路は、車いすと歩行者がすれ違えるよう十分な幅員を確保し、段を設けない。また、休憩するためのベンチを適宜設ける。
- 5 照明は、通行に支障のない明るさ、むらのない明るさを確保できるようにする。



廊下へのベンチの設置
廊下にはみ出さないように設置。



ゆとりある通路と連続した手すり
車いすの人同士がすれ違うことができる幅員が確保されている。



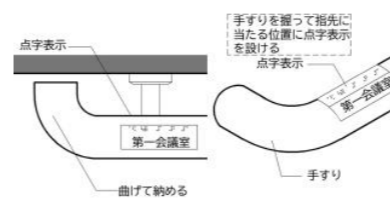
アクセスしやすいゆとりある通路

カウンターの背後の通路、待合の椅子と椅子の間の通路には、車いすの人が通行しやすい幅員が確保されている。



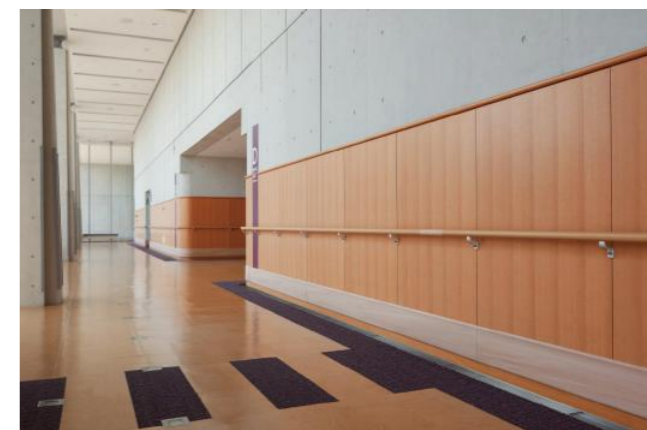
視覚に障がいがある人へ配慮した動線の表示

足裏の感触等や足音、白杖で床を確認する音で動線がわかるよう、カーペットにひし形塩ビタイルが埋め込まれている。照明が床の白いタイルに反射して方向を示す。



手すりの点字表示の例

手すり上部の点字は、見つけやすく、わかりやすい。



点字ブロックの代わりにカーペットを敷設

視覚に障がいがある人の歩行をサポートするために、点字ブロックの代わりとなるカーペットを敷設。突起がないので、車いすもスムーズに移動できる。

「知りたい！」段差情報も発信しましょう。

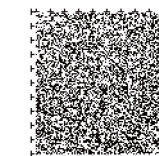
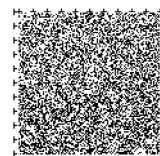
バリアフリー情報に加え、段差などの具体的な情報も必要とされています。車いすの人でも、自力で越えられる段差や幅は人によって異なるため、写真とあわせて数値で示すことが重要です。こうした具体的な情報があることで、利用可否の判断がしやすくなり、不安の軽減につながるだけでなく、情報提供の透明性が施設への信頼を高めるため、積極的な公開が非常に大切です。



10 cm以下の段差

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 /4. 屋内の通路 P54 ~



はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

はじめに

建築物
移動空間

建築物
利用空間

道路

市街地

当事者参画

みんなが使いやすい階段って？

安全でスムーズに上り下りができる

- » 移動に困難がある人でも、つまずいたり、迷ったりせず、無理をしなくても上り下りできる。
- » 手すりや踊り場など、上り下りの負担や危険が少なくなるような工夫が必要。

階段にかわる移動手段も必要

- » 足腰に不安のあるお年寄りや車いすを使用する人、視覚に障がいのある人にとって、階段以外の移動手段があると、移動の自由が広がる。
- » 階段よりも負担の少ない移動手段が必要な人への配慮も必要。



危険な場所に「黄色」が多く使われているのはどうして？

JIS Z 9103（安全色）やISO 3864では、黄色は「警告色」として定義されており、危険や注意を促す場面で使うことが推奨されています。そのため、段差や転倒、事故のリスクがあるところへ注意喚起の意味で黄色が採用されています。

赤や緑は色覚異常のある人にとって識別しにくい場合がありますが、黄色は比較的認識しやすい色です。カラーユニバーサルデザインの観点から、黄色は視認性が高いため、「誰にでも見えやすい」色として推奨されています。

<まちの中で見かける黄色い物>



階段でドキッとしたことある？

- 1 下まで見える直線階段は高さを強く意識してしまい、転落の怖さがある。
- 2 踏み板の先端が出っ張っていると、上るときにつま先がひっかかって転びそうになる。
- 3 視覚に障がいがあるため、階段の始まりがわからず、ぶつかってこらんでしまった。
- 4 階段の途中で段の形状が変わると、歩行のリズムが合わなくなり踏み外す危険が高くなるので、段の形状は変えないで。

こうして ↓ 解決！

柔軟性
わかりやすさ
安全性

安全に上り下りができる階段

- 1 直階段は、万一転落した場合、一気に下まで落ちてしまう危険性があるので、大きめの踊り場を設けたり、又は折り返し階段とする。
- 2 手すりは、両側に子ども用の高さのものと、大人用の高さのものをつくる。
階段の手すりは、利用者が安全に移動できるよう、階段の端から約45cm延長する。手すりの端には、視覚や聴覚で情報を得られるよう、点字に加えて浮き彫り文字や音声案内を組み合わせ、階段の上端には、転落防止のために警告用の点状ブロックなどを設置する。
- 3 段鼻は突き出さないこと。また、滑り止めを設け、その周囲の部分との明度等の差を設けることにより、識別しやすいものとする。



LEDが埋め込まれた段鼻

段の始まりをわかりやすくするため、避難階段の最上段にはLED照明を設置。

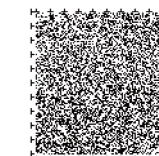
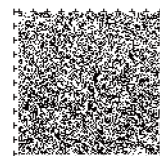


わかりやすい段差

段鼻の色、明度の差をつけて、段鼻を認知しやすくした。階段手すりに設けられた点字表示。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計 / 5. 階段 P60 ~



はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

階段だけで「どうしよう」ってなったことは？

- 1 足腰が弱く、階段を上り下りするのがつらい。エレベーターやスロープがあると助かる。
- 2 車いすを使っているのに、階段しかない移動できない。ベビーカーを押していたり、子どもを連れていけると、階段しかない場所では移動が難しい。
- 3

こうして ↓ 解決！

公平性
柔軟性
負担軽減

階段にかわる移動手段も必要

- 1 利用者が迷わず移動手段を選べるように、階段の近くにスロープやエレベーター等の昇降機を設置する。
- 2 階段、エレベーターは、利用しやすいように主要な廊下に設置する。
- 3 視覚に障がいがある人が階段部分に衝突しないよう、階段下に柵・ベンチ・植栽・点状ブロック等を適切に配置する。



段に併設された傾斜路
主要な経路の階段に併設された傾斜路。



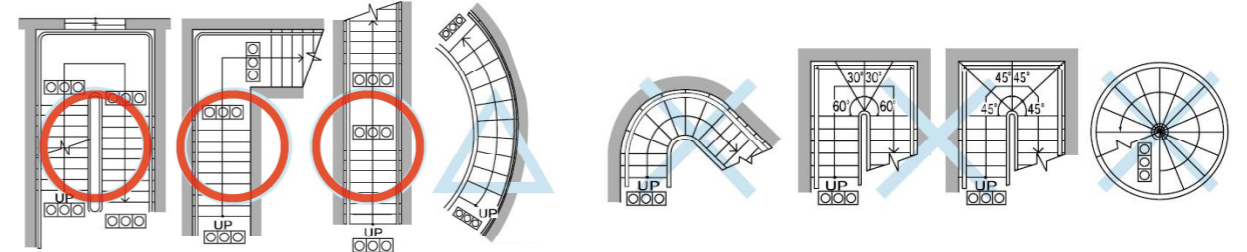
階段近くに設置されたエレベーター
エントランスから客席には音声案内付きのエレベーターでアクセスが可能となっている。

Q&A

Q. みんなが安全に上り下りできる階段の形はどれ？

A. 垂直移動が多い階段です

回り段は、垂直移動と回転動作が同時に起こることでバランスを失いやすくなります。さらに、回り段は踏面の幅が内側と外側で違うため視覚に障がいがある人等が足を踏み外す危険があります。

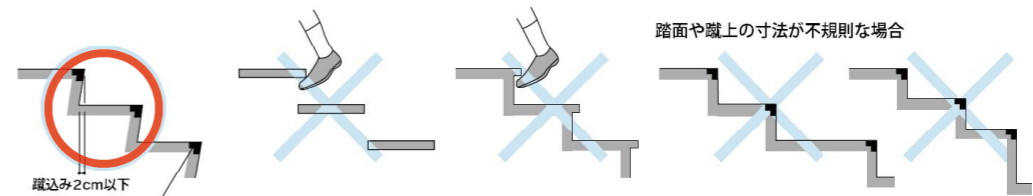


Q&A

Q. つまづくことなく上れる階段はどれ？

A. 蹴込が2cm以下の階段です

※蹴込(けこみ)とは、階段の踏み板(段板)と踏み板の間の垂直部分を言います。



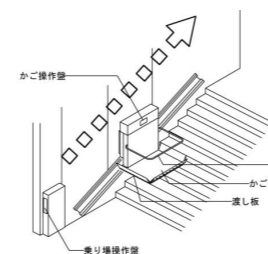
段鼻は、踏面や蹴込みと識別しやすい色のノンスリップ材を使用します。

蹴込板のないものはつまづきやすく危険です。

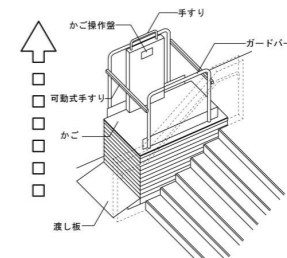
踏面が飛び出しているとなつま先が引っ掛かりやすく危険です。

視覚に障がいがある人が下りる際に踏み外したり、上る際にもつまづきやすく危険。

<スロープの代わりに設置される段差解消機>



斜行型段差解消機

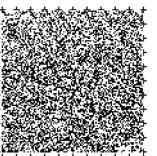
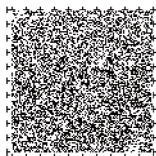


鉛直型段差解消機



【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 第2章 単位空間等の設計 / 5. 階段 P60 ~



みんなが使いやすいエレベーターって？

安全にスムーズに上り下りできる

- ≫ エレベーターは、誰もが安全にスムーズに上り下りできる移動手段。段差を気にせず、車いすやベビーカー、重い荷物を持っていても安心して利用できる。
- ≫ 緊急時には安全に避難できるように、非常ボタン、音声案内、停電時の自動着床機能などの対策が必要。

わかりやすく乗りやすい場所にある

- ≫ 施設の出入口や主要な部屋から見える位置やわかりやすい表示があるとよい。
- ≫ 遠回りせずに使える位置にあると移動距離も短く使いやすい。
- ≫ 昇降の向きや何階に籠があるか分かるとイライラしない。
- ≫ 案内は視覚・音・触覚など複数の方法でお知らせすると多くの人に伝わりやすい。

誰もが遠慮せずに乗りやすい

- ≫ ロビーに十分な広さがあると、待ちやすく車いすの方向転換も楽。
- ≫ 車いすやベビーカーを使っても安心して乗れる広さや数があると、みんなが待たずに乗れる。



不安になるエレベーターとは？

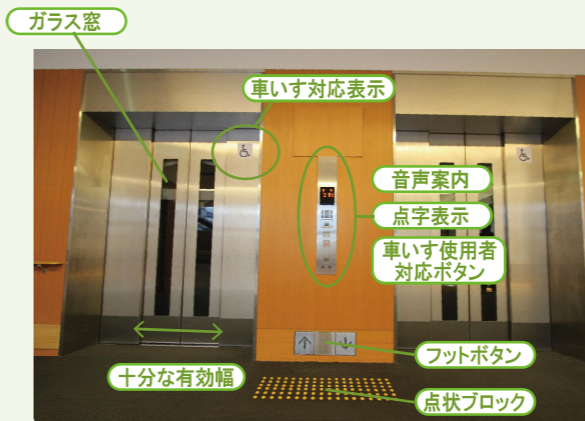
- 1 階段しかないので、車いすでは移動できない。
- 2 ベビーカーや重い荷物を持っていると、階段では危険で大変。
- 3 視覚情報だけで案内されると、今どこにいるかがわからない。緊急時の情報が得られない。
- 4 緊急ボタンを押しても、相手の声が聞こえないので意思疎通が難しい。

こうして ↓ 解決！

柔軟性 わかりやすさ

安全にスムーズに上り下りできる

- 1 上下階への移動は、安全性の確保や利便性を考慮し、原則エレベーターを設置する。やむを得ずエスカレーターを設置する場合は、エレベーターに隣接した位置とする。
- 2 緊急時に聴覚に障がいがある人が外部と連絡を取ることが可能なボタンや、音声や文字で情報提供や誘導案内等を行う表示装置を設置する。非常呼び出しボタンは、触覚又は点字でわかるようにする。
- 3 非常時のための設備として、作動したときに電光表示等と音声で案内できる地震時等管制運転装置及び火災時管制運転装置を設置する。



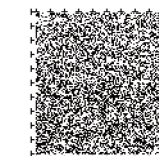
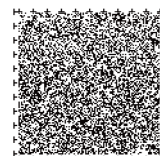
出入口のガラス窓、フットスイッチ
中の様子が外から確認できるため防犯効果になる。ボタンを押さずに足を使ってエレベーターを呼び出すことができる。



籠内の電光表示設置
緊急時に文字情報が提供できる。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/6.エレベーター・エスカレーター P65～



このエレベーター
使いづらい？

- 1 目的の場所へ直接アクセスできず、遠回りしなければならない。
- 2 乗り継ぎがある場合など、エレベーターの場所がわかりにくく、探すのに時間がかかってしまい疲れた。
- 3 音声案内だけでは情報が得られず、視覚的な表示がないと今の状態がわからない。
- 4 扉の開く方向がわからないと、進行方向がわからなくなる。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

わかりやすく 乗りやすい場所にある



- 1 エレベーターは、誰もが利用しやすく、わかりやすい位置に設け、利用居室、車いす使用者用トイレや車いす使用者用駐車区画がある階に停止させる。
- 2 制御装置は、車いすの人が利用しやすい位置に設け、籠内には、籠の現在位置を表示する装置や、ドアの閉鎖、運転異常や定員超過を音声や電光表示板等視覚情報により知らせる装置を設ける。
- 3 車いすの人が籠の中で転回しなくても戸の開閉状況が確認できるよう、出入口状況確認用の鏡を設ける。
- 4 籠内又は乗降ロビーに、到着したエレベーターの昇降方向を知らせる音声装置を設置する。複数言語に対応することで、外国人利用者にも配慮した設計とすることが望ましい。

ホンネ

聞こえない声に、見える安心を！

混雑したエレベーターは、ろう者にとって「見えないバリア」の塊です。奥に追いやられると、「〇階をお願いします」と声をかけることができず、目的の階を諦めることもしばしばです。特に辛いのが重量オーバーのブザーです。警告音が聞こえない私たちは、自分が原因で鳴っていても気づけません。周囲からの「なぜ降りないんだ」という冷ややかな視線を感じて、初めて事態を察します。「聞こえている」前提の設備は、時に私たちを針のむしろに立たせます。ランプ表示など、視覚でも状況がわかる配慮を切に願います。

エレベーターがないと
移動できないのに
どうして？

- 1 混雑時には一般利用者で満員となり、ベビーカーを利用したままでは、なかなか乗ることができなかった。
- 2 優先エレベーターかどうか分かりにくく、必要な利用者が十分に利用できていない。
- 3 車いす使用者用トイレがある階に優先エレベーターが止まらず、遠回りを強いられた。

こうして 解決！

公平性
わかりやすさ

誰もが遠慮せずに乗りやすい



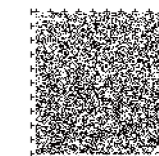
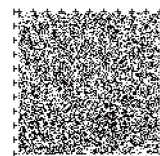
- 1 エレベーターが複数あるときは、そのうちの1つを、車いすの人やベビーカーを使っている人が優先的に利用できるエレベーターとする。
- 2 優先エレベーターの乗り場は、床や壁の色を周囲の色と変えたり、大きな文字やピクトグラムを使った誘導ラインや扉を設置するなど、対象者が分かりやすいようにつくる。
- 3 乗降ロビーには、ベンチや待機スペースを設け、利用者が安心して待てる環境を整備する。
- 4 車いすの人やベビーカー利用者が安全かつ快適に利用できるよう、十分な広さを確保する。また、複数の利用者が同時に乗っても快適に過ごせるよう、手すりや操作盤の位置にも配慮し、スムーズな移動を可能にする。



優先レーンをピクトグラムで大きく表示。お年寄り、障がいのある人、妊産婦、乳幼児連れなど、対象者利用者を明確に示し、混乱やトラブルを防止。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/6.エレベーター・エスカレーター P65～



みんなに伝わる案内表示って？

シンプルでわかりやすい

- ≫ 多くの人が見慣れたピクトグラムや、誰でも直感的に内容がわかるもの。
- ≫ デザインが統一され、見やすい色や形で伝わりやすく、色や形で機能を明確化する。(例：非常口は緑、注意は黄色など)
- ≫ 色覚の多様性に配慮し、色だけでなく形や文字による補完を行う。

どんな人にでも伝わる

- ≫ 視覚に障がいがある人にも見やすい色の工夫、点字や文字等の浮き彫り、音声など複数の伝達手段で伝える。
- ≫ 文字情報とピクトグラムを併用し、情報を補完する。
- ≫ 子ども、外国人に向けて、目線の高さに配慮し、多言語や簡単な言葉で伝える。

見つけやすく迷わない

- ≫ 施設の出入口や廊下の見やすい場所に設置したい。
- ≫ 案内所の近くにあると、人の支援と一緒にサポートができる。

見える情報で、見えない壁を無くしましょう！

案内表示は、誰もが迷わず安心して利用できる環境を支える重要な要素であり、文字や色使い、ピクトグラムなど直感的に理解できる工夫が求められます。また、音声案内や点字ブロック、デジタルサイネージ、多言語サインといった多言語対応設備は、故障や劣化により機能を失うと大きな障壁となるため、常に適切に維持管理することが大切です。



何のためのサイン？

- 1 案内表示の高さや位置によって、利用者の自然な視線に入らない。
- 2 表示が文字だけで、外国人や文字・漢字を読むのが苦手な人には意味が伝わりにくい。
- 3 デザインが複雑で、サインなのかすぐに判断できない。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

シンプルでわかりやすい

- 1 表示板の高さは、視点からの見上げ角度が小さく、かつ、目線の低い車いすの人にも見やすい高さ、ロービジョンが近づいて読むことができる位置・見やすい高さとする。
- 2 利用者にとってわかりやすいよう、文字・ピクトグラム・図等を組み合わせ、必要な情報が連続的に得られるようにする。
- 3 文字は遠くからでもわかりやすい大きさとし、ゴシック体など読みやすい書体とする。
- 4 必要な情報だけを表示し、長文や専門用語を避け、短く簡潔な言葉を使用する。



色のコントラストと統一された書体

視覚に障がいがある人でもストレスなく文字が読めるよう、背景色を濃い色とし、大きい白い文字で表示。字体はゴシック系に統一し、触知できるように、立体的な加工をしている。

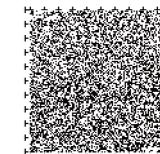
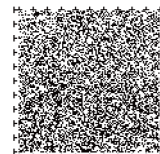


ピクトグラムと点字併記した案内板

ピクトグラムや点字を併記した案内図。風除室の中央に設置され、車いすや子どもでも見やすい高さとしている。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/7.案内表示 P78~



このサイン
わかりにくい？

- 1 ロービジョンや白内障だと、背景の色と文字や図の色が似ていると、書いてある内容が読み取りにくい。
- 2 デザインや文化的背景によっては、意味が誤解されたり、わかりにくかったりする。
- 3 ボタンがないタッチパネル式では、指の感覚で操作する視覚障がい者にとっては画面のどこに何があるかがわかりにくい。
- 4 デザインがバラバラでどれを頼りに進めばいいかわからない。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ

どんな人にも伝わる

- 1 色彩・色づかいは、ロービジョン、白内障（黄変化視界）のお年寄り、色覚多様性のある人にわかりやすいものとする。
- 2 ピクトグラムには文字を、漢字にはひらがなを併記する。壁に設置する表示板・室名表示は、視覚に障がいがある人のための点字を併記する。
- 3 年齢・障がい・言語などに関係なく対応できるよう、音声案内や誘導音、触ってわかる地図を組み合わせる。
- 4 タッチパネル式案内表示は、視覚に障がいがある人にとって操作が難しい場合があるため、点字や音声案内、物理スイッチなどの補助機能を併設することが望ましい。

ホンネ

もしも言葉のわからない国で災害にあったら…

多くの外国人観光客が県内を訪れています。もし大地震が起きたら、地震のない国から来た人はパニックになるかもしれません。もし外国語で情報を得られたとしても、土地勘のない場所で、自分のいる所さえわからないかもしれません。

そんなとき、皆さんが近くにいたらどうしますか？

「外国語が話せないから」「迷惑かも」「自分で何とかできるだろう」と話しかけるのをためらったりするかもしれません。でも、外国語が話せなくても、「気持ち」は伝わります。やさしく話しかけられたり一緒に行動してくれたりすることで、不安な気持ちが和らぎます。災害の時には、いつもよりフレンドリーに話しかけてみてください。

案内表示を見て、
ちゃんとたどり着ける？

- 1 施設によっては、各階で案内表示の位置が違っていて、わかりにくい。
- 2 できるだけ他の人の助けを借りずに、目的地に行きたい。
- 3 立ち止まっての確認は、人の流れの邪魔になってしまうので、気を遣ってしまう。

こうして 解決！

柔軟性
使いやすさ
わかりやすさ

見つけやすく迷わない

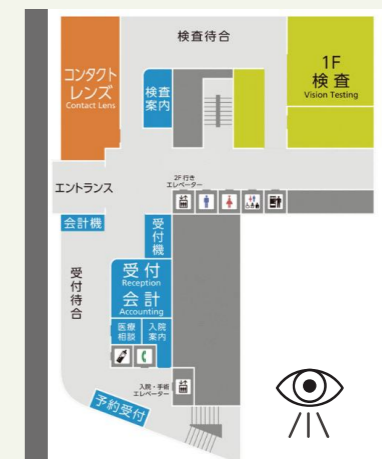
- 1 案内表示は、出入口や案内所、エレベーターホール等の近くに設置し、浮き彫り文字と点字を併記したり、音声案内を組み合わせるものとする。
- 2 主要な経路や避難経路等の動線を示す案内表示は、各フロアに設け、利用者の動線を妨げない位置に配置する。
- 3 点字・音声等による案内表示を設置する際は、施設内あるいは近隣施設内の設置位置等を統一し、視覚に障がいがある人が見つけやすいように配慮する。
- 4 利用者が迷わず移動できるよう、矢印や色分けによる誘導や、多言語対応の掲示板や音声案内等を設置する。



トイレの出入口には男性用と女性用で異なる音色を流した指向性のあるスピーカーが設けられ、男女の識別への配慮がされている。



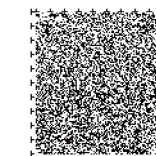
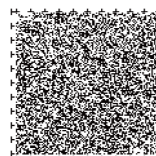
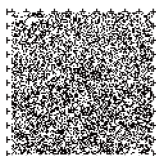
トイレ出入口には、触ってわかるよう立体的なサインも設けられている。



必要な情報に絞り、文字と色で直観的にわかるように表示している。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/7.案内表示 P78~



スムーズに移動するための誘導設備って？

わかりやすく 切れ目ない誘導

- ≫ 視覚に障がいがある人などの移動のために、必要な情報が得られる案内所等まで、シンプルな動線で切れ目なく誘導できる。
- ≫ 「誘導ブロックは黄色など視認性の高い色を使用し、周囲の床材との明度差を確保してコントラストを高め、視認性を向上させる。
- ≫ 誘導用ブロックと他の設備の取り合いに注意する。

危険な箇所を 知らせる

- ≫ 段や進行方向の変更など、気を付けるべき部分で、効果的に警告や注意喚起ができる。
- ≫ 音声による誘導や手すりの併用も効果的。

白杖（はくじょう）の役割って知ってる？

役割1 障害物が無いかを確認するため

白杖を前方や左右に動かしながら歩く姿を見たことがあると思います。進む方向の地面の状態や障害物がないかを確認するためです。

役割2 周囲の様子を探るため

白杖を地面についた際に生じる反響音や、先端から伝わる感触によって、歩行ルートや空間の広がり把握します。また、反響音を手がかりに、自分が交差点のような開けた空間にいるのか、壁に近い場所にいるのかを確認できます。

役割3 周囲へ意思表示

白杖には、視覚に障がいのあることを周囲に知らせるシンボルとしての役割もあります。

役割4 自立と心理的安心感

白杖は視覚に障がいを持つ人が自分の力で移動できる自立性を支えます。



これって歩きやすい誘導になってる？

- 1 広い空間では、どこを歩けばいいかわからなくなる。
- 2 誘導用ブロックを頼りに歩きたいけど、まわりの道と同じような色や素材だと、どこにブロックがあるのかわかりにくい。
- 3 誘導用ブロックが途中で途切れていたり、警告ブロックが二重に設置されていると混乱する。
- 4 誘導用の手すりの近くや誘導用ブロックの上に、ベンチや植木等の物品を置くと、視覚に障がいがあると、その存在に気づかず衝突するのでやめて欲しい。

こうして 解決！

使いやすさ
わかりやすさ
負担軽減

わかりやすく、切れ目のない誘導

- 1 誘導用ブロックは連続して設置する。特に、受付が入り口とはちがう階にある場合は、受付・案内設備、目的地まで迷わず移動できるように設置する。
- 2 ドアや玄関マットの手前、案内所の受付カウンター、点字・音声案内設備、エレベーターの乗り場ボタンの手前などには、位置を示す点状ブロックを設置する。
- 3 誘導用ブロックは、利用者がスムーズに移動できるよう、急な方向転換や不自然な屈曲は避け、自然な動線に沿って設置する。
- 4 誘導用ブロックと手すり、音声案内を組み合わせると効果的。

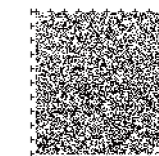
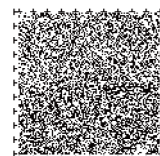


視覚に障がいのある人のための誘導用ブロックの敷設と併せて、音声案内設備が設置されている施設の出入口。

スマートフォンのカメラで、いろいろな角度からフォーカス不要で読み取ることができ、自動的に距離や目的地などの音声案内を聞くことができる。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 第2章 単位空間等の設計/8.視覚障害者誘導用ブロック等 P88～



はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画

警告と誘導、ちゃんと区別できる？

- 1 階段の上端、下端には注意喚起が必要。
- 2 初めての場所では「どこに何があるか分からない」ことが最大のストレス、人に聞いて安心したい。
- 3 誘導用ブロックが劣化ではがれているが、直されていない。

こうして 解決！

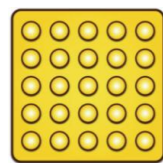
柔軟性
わかりやすさ
安全性

危険な箇所を知らせる

- 1 階段前後やスロープの一番上のところに接している廊下や通路(踊り場)には、30cm程度手前に点状ブロックをしく。方向転換するスペースをつくる。
- 2 階段の手すりは、階段の手前や上がりきった場所から、バランス(転倒やつまずきの心配がない程度)が整うまでの一定の長さを確保する。
- 3 点状ブロックや音声案内装置などのハード面だけでは対応しきれない部分を補うため、人による対応や運用の工夫を学ぶ研修を実施する。
- 4 誘導用ブロックの剥がれや破損により機能を損なわないよう、適切な管理を行い、また工事の後は確実に復旧する。

点状ブロックの上に物を置くのはやめましょう！

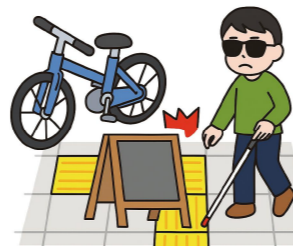
点状ブロックは、視覚に障がいがある人が歩くときに、足の裏や白杖(はくじょう)でさわって、道の場所や進む方向を知るための大事なブロックです。点状ブロックの上に自転車や荷物などが置いてあると、視覚に障がいがある人はそれに気づけずにぶつかって転んでしまい、大けがにつながる可能性があります。視覚に障がいがある人が安全に歩けるよう、点状ブロックの上や近くに自転車や荷物などを置かないように心がけましょう。



点状ブロック
警告や入口を示す。



線状ブロック
道順を案内する。



<視覚障がい者誘導用ブロック>



▲歩道と道路の境界に設置した警告を促す点状ブロック



▲自動式引き戸の出入口を知らせる点状ブロック



▲受付やエレベーターへ誘導する線状ブロック



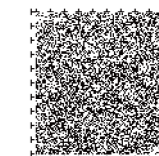
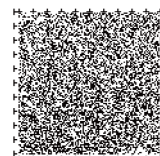
▲トイレやエレベーター、図書館出入口へ誘導する線状ブロック

ホンネ 見えにくさにも いろいろな形があります。

視覚障がい者には全く目が見えない全盲と、視力が低い、または視野がとても狭くて見えにくい弱視がいます。全盲は点字ブロックを足の裏や白杖の先で確認しながら歩きます。一方、弱視は点状ブロックの色を頼りに歩きます。弱視にとって黄色は認識しやすい色です。景観を理由に路面と同系色だと点状ブロックがあるのに気付かないこともあります。

【技術的基準 参考文献】

高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準
第2章 単位空間等の設計/8.視覚障害者誘導用ブロック等 P88~



はじめに

建築物 移動空間

建築物 利用空間

道路

市街地

当事者参画